カムイノミ・イチャルパ

豊浦で息づく“送り”の儀式

カムイノミとは？

▲カムイノミで火の神に祈りを捧げる

「イチャルパ」とは先祖供養の儀式です。町民をはじめ多くの人が参加し盛大におこなわれるこの儀式は、アイヌ民族の儀式を現代に伝える重要なものとなっています。

人間は死後に神々の世界に行くと考えられており、神々の世界は人間の世界と全てのものが逆になります。そのため、食べ散らかしたように細かく切った果物などの供物を捧げることで、神々の世界で満杯の新しい物になると考えています。

▲民族楽器「ムックリ」(口琴) の演奏

みんなが健康で幸せに生活できるように、神々に感謝を述べる行為が「カムイノミ」と呼ばれています。特に火の神である「アペフチカムイ」は神々に人間の言葉を伝える役割を持っており、たくさんの良い神を呼ぶために一番大事な神で、カムイノミを取りしきるエカシ（古老）が炉で火をおこして感謝の祈りを捧げます。豊浦では、13のイナウ（木幣）を礼文華の高い山の神などのカムイとみなし、トノト（酒）をそれぞれのイナウにかけて味見をしてもらう「トノトサンケ」を行い、カムイはそれに応えて自然の恵みを与えてくれます。

この「カムイノミ・イチャルパ」の儀式は、北海道豊浦アイヌ協会が平成 9 年から毎年礼文華地区で行っています。

▲イチャルパで先祖に供物を捧げる

▲輪になって民族舞踊の披露